

「歯ブラシの誕生」

富士市立吉原第一中学校
2年 久保田 安

昔、昔ある日のことだった。
その日世界一人残らずむし歯になった。
そこで一人の百姓が立ち上がったのだ。
その人の歯は一本残らずむし歯だった。
そこでその人は、むし歯を治す道具を發明しようとした。
その人と同じことを思って道具を發明している人がいた。
そして「チームむし歯治し隊」が結成したのであった。
そのチームの目的は、むし歯をも治す伝説の「はぶらし」を作ることだった。
その「はぶらし」の部品は世界のあちこちに、散らばっているのであった。

冒険① ブラシを探せ！

ブラシの情報が入った。
ブラシは、アフリカのガーナのブラシ村の伝説の洞窟にあるという情報だった。
それを聞いた百姓たちは、聞いて何もしない訳にはいられない。
アフリカに出動するのであった。
住んでいる場所は日本であった。
そこからは、船で行くということになった。
船といっても自分でこいでいく、手こぎボートである。
5年の年月を過ぎ、やっとガーナに着くことはできた。
しかし、伝説の洞窟がどこにあるかということ、村の人々に聞いても分からないのであった。

そこで謎のおばあさんと会ったのだ。
黒い服を着て、黒いぼうしをかぶっていたので顔を見ることはできなかった。

そのおばあさんは
「伝説の洞窟へ行きたいのかね。ほんなら、この木を持ってきなはれ。」
といい、木をくれた。

「使い方は、簡単。木を立てて、たおれた方向に向かうがよい。」
そう言っただけのおばあさんは消えていったのであった。

その後、おばあさんの言っていた通りに木をたおし、たおれた方向に進んでいくと、大きな森に着いたのだ。

物音が一つもせず、黒く、ほぼ何も見えない森だった。

たおれた方向に進んでいくと、やっと洞窟を見つけ出したのだ。

その中に入っていくと、奥がとても光っていた。

百姓たちは、光の方へ行ったのだ。

奥で光っていたのは、金色のおばあさんの像だった。

なぜこんな所にあるんだろう？と思い、みんなはおばあさんを見つめてみると、おばあさんの口が開いてきたのだ。

その口からなんと、金色のブラシが出てきたのだ。

みんなはそれを大事に持って帰ったのだ。

冒険② 伝説の巻物を見つけだせ！

巻物の情報が入った。

巻物には、歯ブラシの作り方が書いてあるという。

場所は、日本のどこかにあるという。

百姓たちは、絶対見つけてやると言い、場所を分担し、探し始めたのだ。

しかし、その情報以外の情報は分からなかった。探しても、探しても巻物は見つからなかった。

らないのであった。

山や海、森の奥深くや人々の家などを、徹底的に探しているのだった。

そして探し始めてから、一年がたつ頃だった。

その時もまだ見つからないのであった。それから一週間した頃だった。

一匹のイルカが海で、子供たちにいじめられていた。

それを見た百姓は、子供たちを追っ払いイルカを助けて海に帰してやったのだ。

その日の次の夜のことだった。

コンコンと、家の戸をたたいている音が聞こえたので、戸を開けてみた。

すると、前に助けたイルカが二足歩行になり立っていた。

イルカは

「昨日は本当にありがとうございます。もしよければ、これを受け取って下さい。」

と言われ、

「何だろう？」

と思ひ見してみると、それはなんとあの巻物だったのだ。

「イルカ、ありがとう。」

と百姓が言った時、もうイルカは消えていたのだった。

すぐに巻物の中を見た。

中には「ブラシを1cm切り、それを木にくつつける。」

と書いてあった。

その通りに、金のブラシを1cmずつ切り、家にあつた薪につけて歯を磨いてみた。

すると、黒い虫歯の歯が一瞬にしてピカピカの真っ白の歯になったのだ。

その後日、歯ブラシをたくさん作り、みんなに配った。

するとみんなの歯も一瞬にしてピカピカ真っ白の歯になったのだ。

その歯ブラシは世界中に伝わり、世界で一人も虫歯の人はいなくなったのだ。

もう絶対虫歯にはなりたくない。

「毎日ね

しっかり歯磨き

していれば

虫歯なんぞ

かかりはせん」